

3/2 早稿

## 論説

2023・3・2

### 学術会議と政府

# 知性の声に耳傾けねば

政府が回復する日本学術会議の改  
革法案についてベル賞受賞者が  
「頭に抱えだす」と嘆息を洩ら  
る眞理が現れた。政府案は国会議  
院議長の人事に學識士に入らし  
て改めた。新聞改めてや。

（2023年3月10日）  
時事新報社  
（第三著）「頭  
が選んで直相に推薦する仕組み  
だが、政府案では審議員などから  
のメンバーをきむ第三著で「審議  
会議員会（假想）」をつくる。  
会議委員にあたっては、同審議会  
の構成を議論、尊重しなければ  
ならないこと。

（3）の政府案に沿じ、会議から審  
議を出したいのが群依典治・名田  
廣大特別教授や木原祐・京都大学特  
別教授、白川英樹・筑波大名誉教  
授、天野浩・名古屋大教授の八人  
である。数多のベル賞といわ  
れるフィールズ賞を受ける森謙文  
・京都大特別教授も加わる。

「成程」した先進国の政府はナ  
ショナルアカデミー（科学者の代  
表会議）の活動の自律を尊重し、  
介入しない」と本文律にしてお  
いた。（法改正は）学術会議の独  
立性を擁護するがそれがあり、大き  
きな危機を抱く」「学術の独立性  
といった根源的かつ重要な問題」  
つながる」などとした声明だ。

（4）のベル賞を封じる憲法より  
現代文明が抱える問題について、  
学術会議は総合的で確かな知識を  
与める組織で構成される。施行規  
則がかかるた第三著が審議  
の人選に関与すれば、会議自体が  
政府の意向に影響されてしまう。

学術会議は過去に軍事研究批判的見解を示しておるが、政府  
が「政治の力」をそれを否定す  
れば、学術の世界からの取扱いは  
で意味をなさないがゆ  
る。政府への抗争を封じる憲法より  
抽翁田陰と直面し難いのではないか。  
学術会議が独立性をもつて、政府に  
説教されずは在り難いとおも  
うなり感かといつておられる。

（5）は「人権」、「人権が  
手にしている最高な知的算め」と  
記す。その領域に政治が介入し  
得るか是非にしあつともある  
る。政府は日本が豊かな知性の元  
素を保有する時代をめざしてい  
くが、会議の人権や選舉權も失  
入する擔心を抱てぬぐめた。